



シンポジウム

タクラマカン砂漠の 環境3000年

—小河墓・楼蘭・そして今

2008年撮影 佐藤プロジェクト 小河の河跡をのぞんで

2010年3月4日(木)

10:00~15:30

京都大学・稲盛財団記念館 3階 大会議室(稲盛記念ホール)

聴講無料

言語：日本語・中国語・英語(中国語・英語は日本語通訳付き)



1934年撮影 スウェン・ヘディン財団所蔵 タリム川沿岸

タクラマカン砂漠の環境3000年 —小河墓・楼蘭・そして今

総合地球環境学研究所・佐藤プロジェクトでは、タクラマカン砂漠の3000年前の遺跡、小河墓遺跡の調査を4年間にわたり実施しています。この結果、遺跡周辺地域はかつて砂漠ではなく、牧畜やムギ農耕が行なわれていたこと、しかし農耕を中心としたさまざまな人間の活動の影響によって、砂漠化にいたったことがわかってきました。また、スウェン・ヘディン財団が所蔵する20世紀初頭の写真を見ると、砂漠化は今なお進行中のようです。これらの研究成果を発表し、過去3000年のタクラマカン砂漠における環境変化と、そこから得られる、人間と環境が共存できる未来への指針について討論すべく、本シンポジウムを開催いたします。

プログラム

- 10:00 開場
- 10:30~10:45 細谷 葵 (総合地球環境学研究所)
「シンポジウムの趣旨説明」
- 10:45~11:45 ホーカン・ヴォルケスト (スウェン・ヘディン財団/スウェーデン国立民族学博物館)
「スウェン・ヘディンとタリム盆地の景観変遷の研究」 (英語、日本語通訳付き)
(Sven Hedin and the study of the changing landscape of the Tarim Basin)
- 11:45~13:00 昼休み
- 13:00~14:00 イディリス・アブドゥラスル (新疆文物考古研究所)
「楼蘭地区考古学研究的な重要な新展開—小河墓遺跡を中心に」 (中国語、日本語通訳付き)
(楼蘭地区考古学的重要突破)
- 14:00~15:00 伊藤 敏雄 (大阪教育大学)
「楼蘭地区の歴史と環境—文献史料を中心に」
- 15:00~15:15 小島 康誉 (佛教大学ニヤ遺跡学術研究機構)
「世界的文化遺産の保護研究を使命として」
- 15:15~15:30 佐藤 洋一郎 (総合地球環境学研究所)
「閉会のことば」

京都大学 稲盛財団記念館 3階 大会議室 (稲盛記念ホール)

- 京阪
神宮丸太町駅、出町柳方面出口から北へ徒歩4分
- JR/近鉄 京都駅から
市バス205/17/4系統で「荒神口」下車、東(荒神橋方向)へ徒歩4分
- 阪急 河原町駅から
市バス59/37/17系統で「荒神口」下車、東(荒神橋方向)へ徒歩4分
- 地下鉄烏丸線 丸太町駅から
市バス204/202系統で「丸太町京阪前」下車、北へ徒歩5分

お問い合わせ

総合地球環境学研究所 (地球研) ・佐藤プロジェクト
担当：細谷 葵 / Tel：075-707-2386 e-mail：Leo.Aoi@chikyu.ac.jp
<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project/>

